



災害に立ち向かう団結力

昨年の東日本大震災から1年半以上が過ぎましたが、今度は、南海トラフ巨大地震、首都圏直下型地震などの起こる可能性が予想されています。

災害はいつ起こるかわかりません。決して、想定内で起こるわけではありません。大自然の猛威の前には、一人一人では、あまりにも微力です。日頃からの備えと団結して行く事が大切だと思います。

あなたにもできることがあります。



あなたの想いで、守れる町がある。
あなたの想いで、救える命がある。
あなたの想いで、深まる絆がある。

消防団との連携活動

二宮町消防長 西山弘和



本年4月、消防長に就任いたしました。その責任の重さを痛感しているところですが、消防の使命達成のため鋭意努力してまいります。

消防団員の皆様には、日頃から消防行政並びに火災予防にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。消防の責務は、町民の生命、身体及び財産を火災などの災害から守り、安全で安心して暮らせる街づくりを推進することです。しかし、近年は社会構造や環境の変化に伴い、災害は複雑多様化かつ大規模化する傾向があります。また、3.11「東日本大震災」

により消防団活動の重要性が見直され、消防防災体制の一層の充実強化が必要です。

今後は更に消防署・消防団が連携を密にして消防の使命達成のため邁進していく所存ですので、消防団員の皆様のご協力をお願いいたします。

やってみたい消防団 やってよかった消防団

二宮町消防団長 杉崎 一夫



日頃より町民の皆様には消防団の活動に深いご理解とご協力を賜り心より感謝し御礼申し上げます。消防団の使命は、地域防災の最前線でそれぞれが職業を持ちながらも、一朝有事の際は、いち早く災害現場に駆けつけ住民の生命、財産を守る崇高なものであります。

昨年の東日本大震災や集中豪雨による土砂災害、爆弾低気圧による竜巻被害等に見られるように近年の自然災害は被害が大規模化しその対応には、人海戦術に頼らざるを得ません。

しかし、近年の就業形態の変化等により消防団員の確保が大きな課題となってきました。第1分団から第5分団まで一個分団15名の団員がそれぞれの地域で活躍していますので、様々な職業人の異業種交流会でもあり、子供さんを通じて家族ぐるみのお付き合いなど地域社会との接点を持つため、とても良い機会が消防団活動により得られると思います。その活動で得られた結束力や絆は一生を通じて大事な宝物となっていきます。「やってみたい消防団 やってよかった消防団」を目指して日々活動に励んでいます。あなたも是非「新たな消防団の力」となって参加してみませんか！！



1番員：前田秋勝



3番員：林 浩二



2番員：田中栄彦

第48回神奈川県消防操法大会 第三分団出場 優良賞

平成24年7月24日(火) 神奈川県総合防災センター(厚木市)

「消防操法大会」は、消防団員が日ごろの訓練で磨き上げた消火技術を競い合う大会です。

今年は、二宮町から第三分団がポンプ車操法の部に出場しました。(分団としては、20年に一度の晴れ舞台です。)

30℃を越える猛暑日となりましたが、分団員皆で円陣を組み結束を高めて、競技に望みました。出場一番目です。

大会直前にタイムが縮まらず、ミスが出て、スランプのような感じに見えましたが、選手達は決して諦めていなかった。年齢的体力的なハンディーがある中、現時点でできることを、精一杯の操法を見せてくれました。

結果は6位、優良賞。順位が全てでなく、それ以上に選手を含む三分団皆のやりきった表情が印象的でした。

団結、絆、得たものは大きく見えました。訓練の時から応援していたので、感動を分けてもらえました。



指揮者：大沼英樹



4番員：大東克司

30秒間サイレンが鳴ります。夜9時（火災予防運動期間中）



秋の火災予防運動 11月9日～15日
 歳末火災特別警戒 12月25日～31日
 春の火災予防運動 3月1日～7日

期間中、「火の元点検」を啓発するため21時より30秒間サイレンを鳴らします。火災が発生しやすい季節なので、御理解のほど、よろしくお願いします。

「防災意識を高めるよう」消防車による広報活動・巡回の他、消火栓・防火水槽の点検等を行います。

被災地石巻での体感

団本部幹部研修旅行

10月22日(月)、東日本大震災被災地である石巻市を視察訪問しました。

石巻駅前、石巻観光ボランティアの高城さん(元消防署長)が、バスに乗り込み被災現場を案内してくれました。

大震災から1年7ヶ月が経ち、町の明るさが感じられましたが、注意してみると津波の痕跡が残っており、まだ、片付いていない瓦礫の山が随所に見られました。

商店街の中の不自然な空き地、根本だけ残っている松並木。土台だけが残って閑散とした荒野のイメージがあった町並みは、雑草だらけで、点在する廃屋(住人がいなくなって放置されたままの家)が、妙に生々しく感じられました。

この体感は、実際に現地へ行くことでしか味わえないものです。

ガイドの高城さんは、当時消防職員として活動して、幾つもの修羅場を経験しており、いろいろな話を聞かされた。十字架を背負い、前向きに生きている姿に底知れない強さを感じました。

大震災時は、みんな助け合いながら乗り越えてきたとの事。

最後は「人の力」なのです。

「災害に立ち向かう団結力」が、消防団に必要な事だと思いました。



被災した門脇小学校



自衛隊ヘリによる物資輸送(訓練)

平成24年8月26日(日)二宮町総合防災訓練での一コマ。町民運動場へ土埃り防止のための散水。(第一分団)

消防操法大会に出場して

我々第三分団が操法大会に出場するのは平成4年以来の事です。

中郡の全17分団を代表して立ち向かうは、各市(郡)町村を代表してくる勇ばかりでした。四十路の我々には、全てのチームが強敵でしたが、奮い立たせてくれたのは、分団発足以来の諸OBの方々の教え、町長をはじめ議員や町内会や他分団の方々の応援、団長・副団長や署員の方々の指導、そして陰ながら支えになっていた家族や職場の方々でした。

大会の内容と結果は、想像に足るものでしたが、得たものは、結束という大きな絆と消防技能の向上、そして各員が、頼もしい亭主・屈強な父親・心強い団員の姿を残したことだと思っています。

3ヶ月の訓練では、選手の選任、苦渋の選択、意見の相違など曲折もありましたが、仲間と共に学び、共に改善し、共に研究し、そして共に挑んだあの瞬間を振り返ると目頭が熱くなるのを感じます。

余談となりますが、年々消防団員の減少及び高齢化は予断を許さない状況です。かくゆう第三分団も毎年新入団員の確保は常に頭の痛い問題です。

次に出場する機会が訪れる時は、更なる上を目指し、地域を愛する若い仲間を切に願うところです。

今はただ、出場する機会を与えられたこと、多くの皆様に頂いた激励の言葉や指導、そして良き仲間めぐり逢えたことに感謝しきりです。

(第三分団 分団長 横澤 馨)



消防団員募集

公務災害補償制度 被服の貸与
退職報償金 表彰制度

「自分たちのまちを、自分たちで守ろう。」



撮影：平成24年4月22日(日) 新入団員訓練(剪定枝資源化施設用地)

消防団は、通常は自らの仕事を持ちながら、「自分たちのまちを自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域の人たちのため、社会のために活動している人の集まりです。二宮町では、現在約7割の団員が、サラリーマンです。

問い合わせ

消防本部 消防課庶務班 ☎72-0015